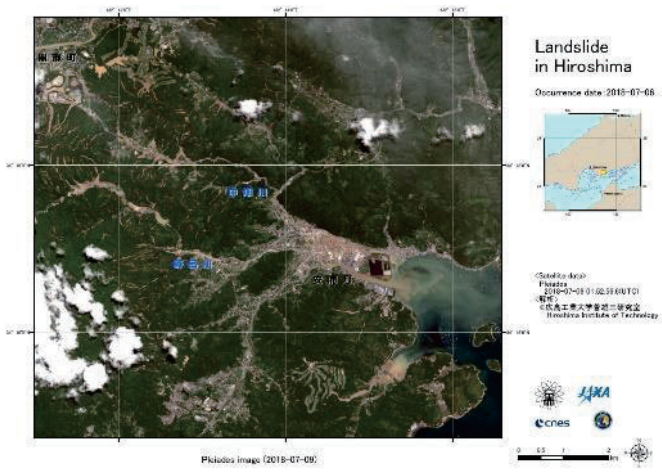
（一社）日本リモートセンシング学会

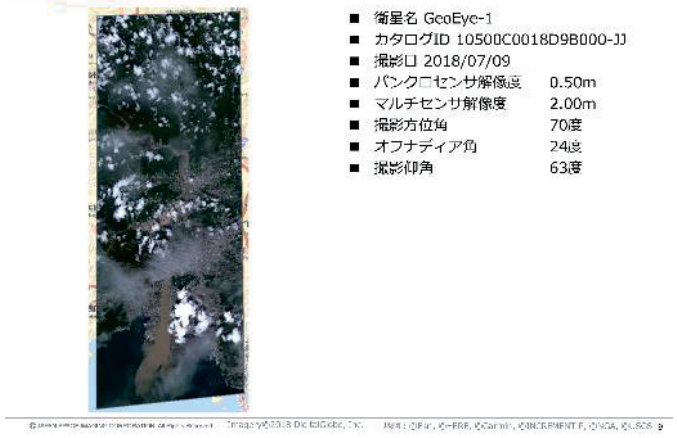
大規模災害時の衛星データの利用可能性と将来展望

平成３０年のように広域を対象に連続して発生した災害の把握には、迅速な情報収集が必要であり、衛星データが有効的です。現在、多くの衛星が災害把握を目的に運用されており、利用が期待されています。
平成３０年における災害を例に利用実績を紹介するとともに、今後の将来展望・計画を説明致します。

平成30年夏の災害の観測事例

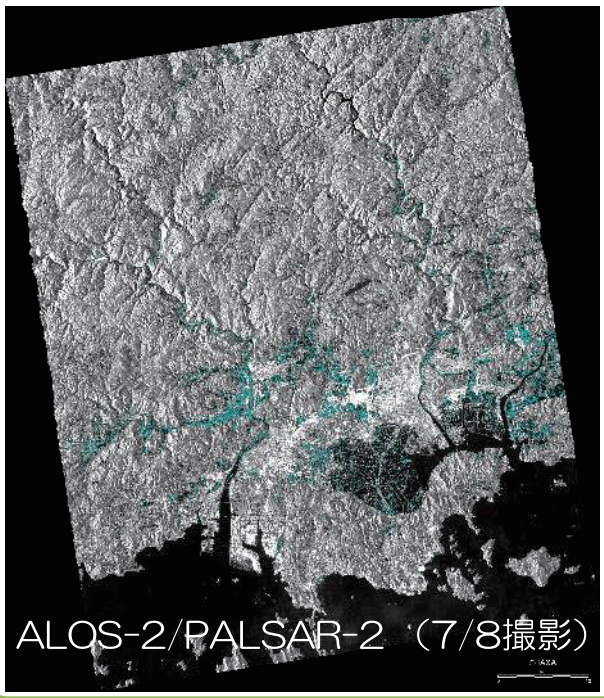


国際災害チャーターの事例
https://disasterscharter.org/web/guest/activations/-/article/flood-in-japan-activation-577-

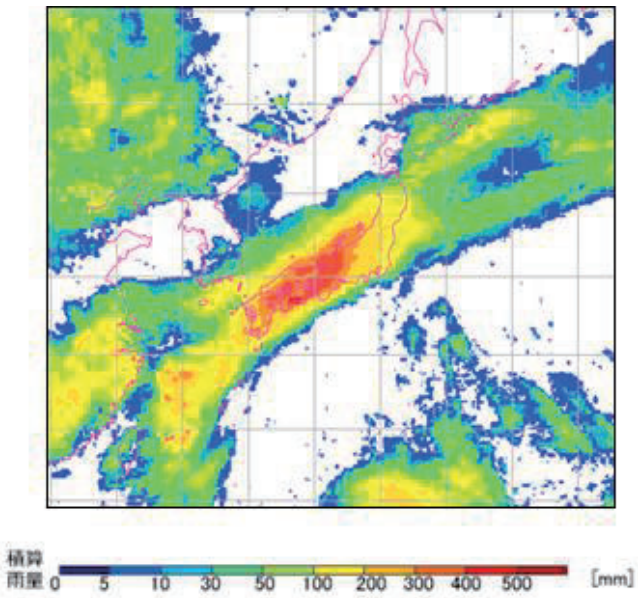


GeoEye（7/9撮影）

ASNARO-1（7/10撮影）



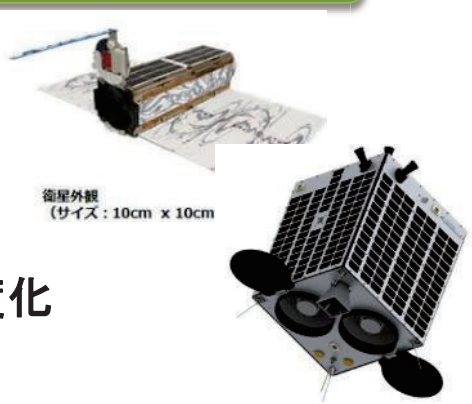
情報収集衛星（7/14撮影）

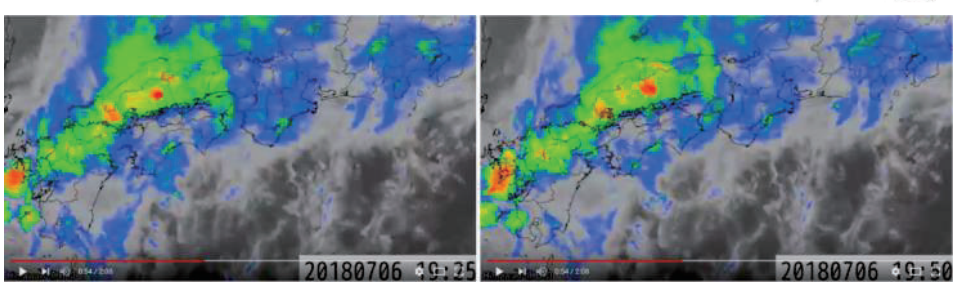
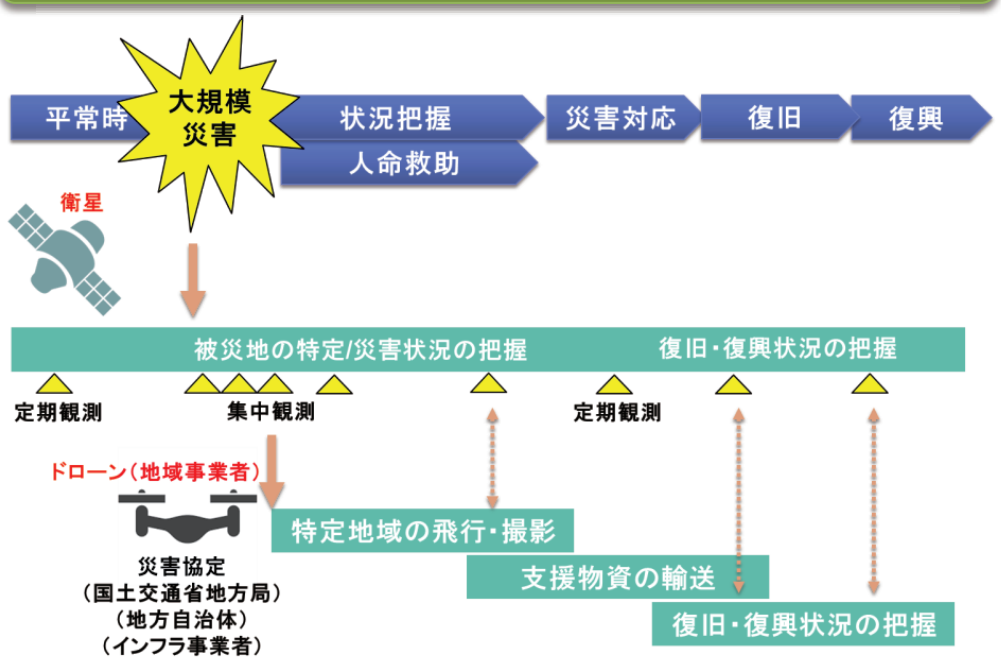


全球降水マップGSMaP
（7/5空8の積算降水量）

災害時に利用が期待される衛星

- **超小型衛星**
（例：Planet）
- **小型衛星**
（例：アクセルスペース）
- **静止気象衛星の高度化**





災害時の衛星とドローンを融合した観測の将来像